

公益財団法人さんりく基金
令和6年度第2回評議員会 議事録

1 開催の日時及び場所

- (1) 日時 令和7年2月6日(木) 午後1時30分から午後2時15分
- (2) 場所 岩手教育会館カンファレンスルーム200(盛岡市大通1-1-16)
及びWeb会議システム「Zoom」

2 評議員の現在数

評議員7名

3 出席者

- (1) 評議員 村上 宏治

以下の出席者は、Web会議システム「Zoom」により参加した。

評議員 桐田 教男
評議員 澤里 充男
評議員 引屋敷 努
評議員 平松 福壽
評議員 水野 雅裕

- (2) 役員

業務執行理事 松本 淳 業務執行理事 中野 文男

- (3) 事務局

事務局長 松本 淳 事務局次長 森 英介
三陸DMOセンター長 中野 文男 DMO事業部長 高橋 利明
総務管理部長 佐藤 光勇 DMO事業部副部長 立柳 敦
DMO事業部副部長 日向 満 総務管理部副部長 戸塚 教仁
事務局員 田村 優子 事務局員 川村 泉

4 欠席者

評議員 菊池 透

5 議長

村上 宏治

6 決議事項

第1号議案 令和7年度事業計画及び収支予算等について

7 議事の経過

午後1時30分開会した。

冒頭、Web会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認し、議事を開始した。松本業務執行理事が、評議員現在数7名中出席6名により定款第20条に定める定足数を満たしており、本評議員会は成立した旨を告げた。

また、議長である菊池評議員が本日欠席であることから、副議長の村上評議員が本日の議長として議事進行を進めることとなった。以降の進行は、村上議長により進められ

た。

なお、議事録署名人について、議長一任とされたので、議長は桐田評議員と澤里評議員の2名を指名した。

報告事項1「職務執行の状況について」

松本業務執行理事及び中野業務執行理事が執行状況を報告した。

議長が報告について質問、意見を求めたが、発言はなく、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案「令和7年度事業計画及び収支予算等について」

議長は、第1号議案について事務局に説明を求め、森事務局次長が説明した。

議長が、第1号議案について質問、意見を求めた。

【桐田評議員】

助成事業の調査研究事業について、「実用性・事業性の高い研究事業にかかる経費を支援する」とあるので、これまでの実績として実用化・事業化されたものについて情報発信をしっかりとやっていただきたい。

【佐藤総務管理部長】

助成事業の実績については、事業概要や実施主体等をホームページで公開している。実際に実用化・事業化になった研究の情報発信については、これからより見やすい形でホームページ等で発信を強化していきたい。

【平松評議員】

事業計画を策定する際に事前に各市の事務方の意見を反映させる機会は頂いているのか。

【森事務局次長】

さんりく基金として事業計画策定の際にオフィシャルに話を伺う機会は設けていない。兼務職員が観光・プロモーション室、県北・沿岸振興担当として、日々業務でお話を伺う中でいただいた意見を踏まえて事業を検討しているところ。

【平松評議員】

承知した。当方の事務方と相談する。

【澤里評議員】

みちのく潮風トレイル来訪者調査について、今年度もアンケート調査をして市町村にフィードバックしており、新年度についてもフィードバックする予定という説明であった。現在も結果は届いていると思うが、調査結果をもとにしてDMOで市町村に対する指導や研修を行う予定はあるか。

【中野業務執行理事】

アンケート調査について、今年度は2、3週間おきにデータのフィードバックをしている。今後、年度を通じたレポートをまとめて関係団体等にお戻ししたいと考えている。これを用いた指導や研修といった点については具体的に実施を予定しているものはないが、各地域で実施しているトレイル連絡会議などで報告して、意見交換して

いくことも考えている。

【澤里評議員】

承知した。ぜひ調査結果を有効に活用できるように色々方法を考えていただきたい。

【村上評議員】

ただいまの意見を踏まえて事務局では結果の有効活用をよろしく願います。

【桐田評議員】

三陸地域における観光人材の育成について、三陸観光プランナーの養成事業として「商品企画力と実践力を備えた三陸観光プランナーの育成」とあるが、現在三陸観光プランナーは実数で何人いるのか。商品を企画して実践した場合、プランナーに金銭的な収入があるような現状か。

【中野業務執行理事】

三陸観光プランナー養成塾の塾生は令和5年度までで100名。プランナーの状況は、旅行商品を提供する観光事業者や団体に活動する方、もしくは自営や個人で活動する方と大きく2つある。三陸の自然を生かしたアクティビティや漁師体験など団体に所属して事業実施している方やいわゆるOTAサイトで個別に販売している方もいる。受講生100名がすべて今のような活動をしているわけではなく、その他にも交通や宿泊、飲食の事業者として観光関連事業に従事していたり、自治体で携わっていたりという方もいる。地域おこし協力隊だった方で既に三陸地域を離れている方もいるといった状況。

【桐田評議員】

受講生が100人というのは心強く感じる。ただ、三陸地域の観光業としてのなりわいの形態の一つとして三陸観光プランナーという職種があると、それに続く人たちも出てくると思う。したがって、一定の実入りを獲得するような人たちや活動してるプランナーにはゴールドマークを付けるなど、特別な存在だという風にスキルアップをしていくのも一つのアイデアではないかと感じている。

【高橋 DMO 事業部長】

今年度DMOセンターで商談会を開催しており、プランナーから商活動する機会がなかなかないという声もあり、商談会を通じてエージェントとのつながりを作って、旅行商品造成につなげていくことを進めていきたい。物産を手掛けている方とも一緒になって協力して旅行商品につなげていく。最終的に三陸地域で観光消費額のアップを目指していきたいと思っているので、三陸沿岸の市町村と連携しながらすすめていきたい。

議長が、他に質問、意見を求めたが、特に発言はなく、第1号議案の賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

議長はその他事項について意見を求めたが、特に発言はなく終了した。

以上をもって議事の全部の審議及び報告等が終了したので、議長は午後 2 時 15 分閉会を宣し、散会した。本日の Web 会議システムを用いた評議員会は、終始異状なく議題の審議を終了した。

8 議事録作成者

業務執行理事兼事務局長 松本 淳